

プロジェクト名:       〇〇〇CSIRT 構築プロジェクト      

## 組織内 CSIRT 構築

# 構築活動のためのスコープ記述書

(バージョン 1.0      2021年 X月 X日)

担当部署	作成者
〇〇〇部 〇〇課	〇〇 〇〇

審議欄	〇〇課	〇〇課	〇〇課	

承認者

プロジェクトマネージャーおよび組織	CSIRT 構築プロジェクトを主導する人の氏名と所属を記述
<p>(例) ○○部○○課 ○○○○氏</p> <p>(例) 構築した組織内 CSIRT における運用責任者</p>	
プロジェクトの概要	CSIRT 構築プロジェクトの背景、内容を含む概要を記述
<p>(例) 会社全体としてのインシデント対応体制の整備の必要性</p> <p>(例) 特に、各部署にまたがるインシデントや、外部要因によるインシデントへの対応能力をつける。</p>	
プロジェクトの達成目標	計測可能な具体的な表現が好ましい。
<p>(例) インシデント対応を専門にするチーム (CSIRT) を構築し、従業員に周知する。</p>	
主要なマイルストーン	プロジェクトの進捗を図れる主要ポイントを記述する。成果物名を記述すると分かりやすい
<p>(例) 9 月末までに、CSIRT に関する勉強会を終了</p> <p>(例) 10 月末までに、組織内 CSIRT 構築に必要な社内の情報収集およびとりまとめが完了。 (関連する情報収集に関する文書の完成)</p> <p>(例) 11 月中旬までに、CSIRT 記述書を完成させる。</p>	
プロジェクトの対象範囲	プロジェクトに何を含めるか、含めないかの境界線を定める
<p>(例) 個人情報漏洩に関する対応体制はすでに整備されているため、組織内 CSIRT は直接対応することはなく、その支援をすること。</p> <p>(例) 外部のデータセンター内で発生したインシデントについては、外注しているセキュリティベンダーがその監視および初期対応を実施するため、組織内 CSIRT はそのエスカレーション先となる。</p>	
前提条件	確証の有無を問わず、確実である、あるいは正しいと考えられる要因を記述する
<p>(例) 各事業所内で発生するインシデント対応に関する計画は、すでに存在している。</p> <p>(例) システム及びネットワークに起因するインシデントに対する技術的な対応は、システム部門が主に担当する。</p>	
制約条件	活動や選択肢を制限する要因を記述 予算、スケジュール、作業場所などの制約事項
<p>(例) 組織内 CSIRT にかかる作業場所は、機微な情報を扱うため、2 階の小会議室を使用すること。</p> <p>(例) 打ち合わせの頻度は 2 週間に 1 度のペースで実施すること。</p>	
その他(リスク等)	今後起こるかもしれない不確実な事象や、プロジェクトの スコープ(適用範囲)に関連することを記述
<p>(例) 経営層から正式に了承を得ることができるかどうかの確証がない。</p>	